

令和3年度 東部教育事務所指定
「はばたく群馬の指導プラン」推進校 研究発表会

〈研修主題〉

「自ら考え自ら学ぶ 生徒の育成」

～はばたく群馬の指導プランⅡ

を活用した授業実践を通して～

桐生市立広沢中学校



I 本校の現状

- ▶ 教職員が各自で新学習指導要領の全面実施を受けた授業づくりをしている。
- ▶ 昨年度の道徳の実践により、授業の中で考え議論しようとする生徒が増えている。
- ▶ 教職員の構成や分掌が大きく変わり、生徒や教職員の一部が不安を抱えている。



Ⅱ 今年度の課題

- ▶ 新学習指導要領完全実施をふまえた授業づくりを、どのように進めるか。
- ▶ 昨年度の道徳の実践を通じた研修の成果を、各教科にどのように生かすか。
- ▶ 各教職員の経験を、他の教職員にどのように引き継ぎ、広めていくか。



Ⅲ 具体的な手立て

「はばプラⅡを活用した授業の実践と検証」

- ① 『はばプラⅡ』で示された「主体的・対話的で深い学び」にするための授業づくりの基本の徹底
- ② 学年部会を基本としたチームによる指導力向上のための組織的な支援体制づくり



Ⅲ 「主体的・対話的で深い学び」にするための授業づくりの基本 はばプラⅡへの理解を深めるための研修

- ・ 授業を変える 子どもが変わる！

「はばたく群馬の指導プランⅡ」の活用

東部教育事務所 木村主任指導主事 様

- ・ ICTの基本的な活用について

東部教育事務所 高柳指導主事 様



Ⅲ 「主体的・対話的で深い学び」にするための授業づくりの基本 はばプラⅡへの理解を深めるための研修



① 「めあて」の提示

② 対話的な場面の設定

③ 「振り返り」の活動

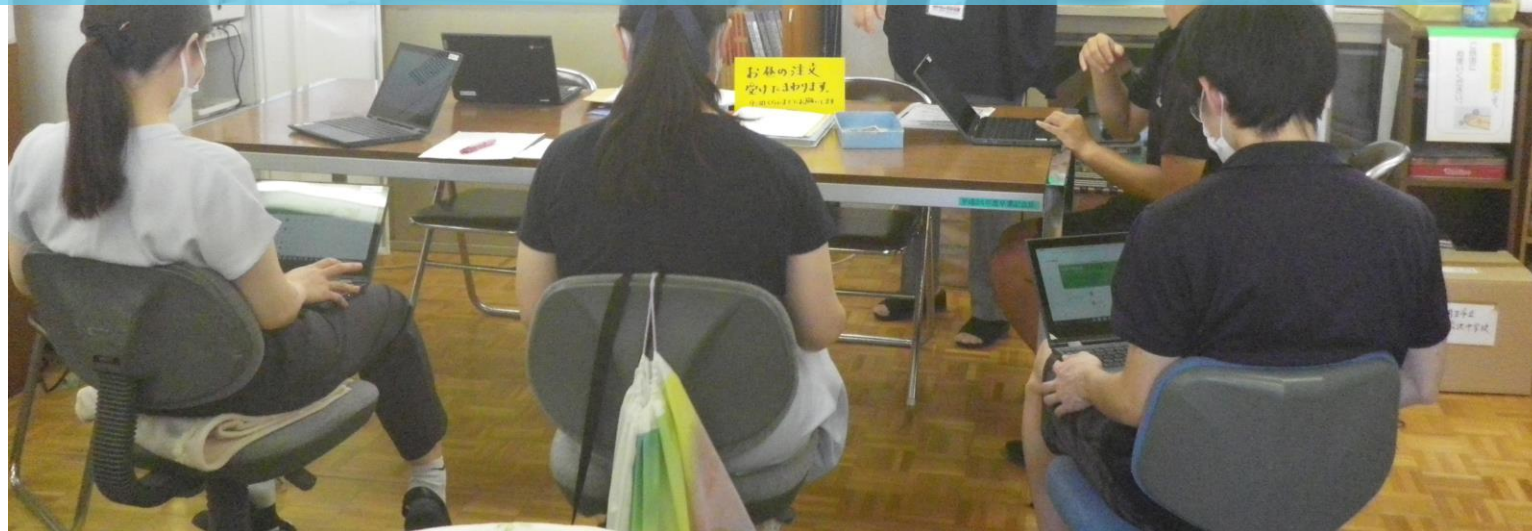
学校全体でイメージを共有



Ⅲ 「主体的・対話的で深い学び」にするための授業づくりの基本 はばプラⅡへの理解を深めるための研修

ICTサポーターと連携したICTの活用

- ・タブレット1人1台の活用に向けた教師向けの研修
- ・「総合」の時間を利用した基本操作ガイダンス
- ・教材研究のなかでの個別の活用アドバイス



Ⅲ 学年部会による組織的な支援体制

- ・スムーズな情報交換

→共通の生徒を指導している学年単位で情報交換を行い、個や集団の特性まで考えたアドバイスができる。

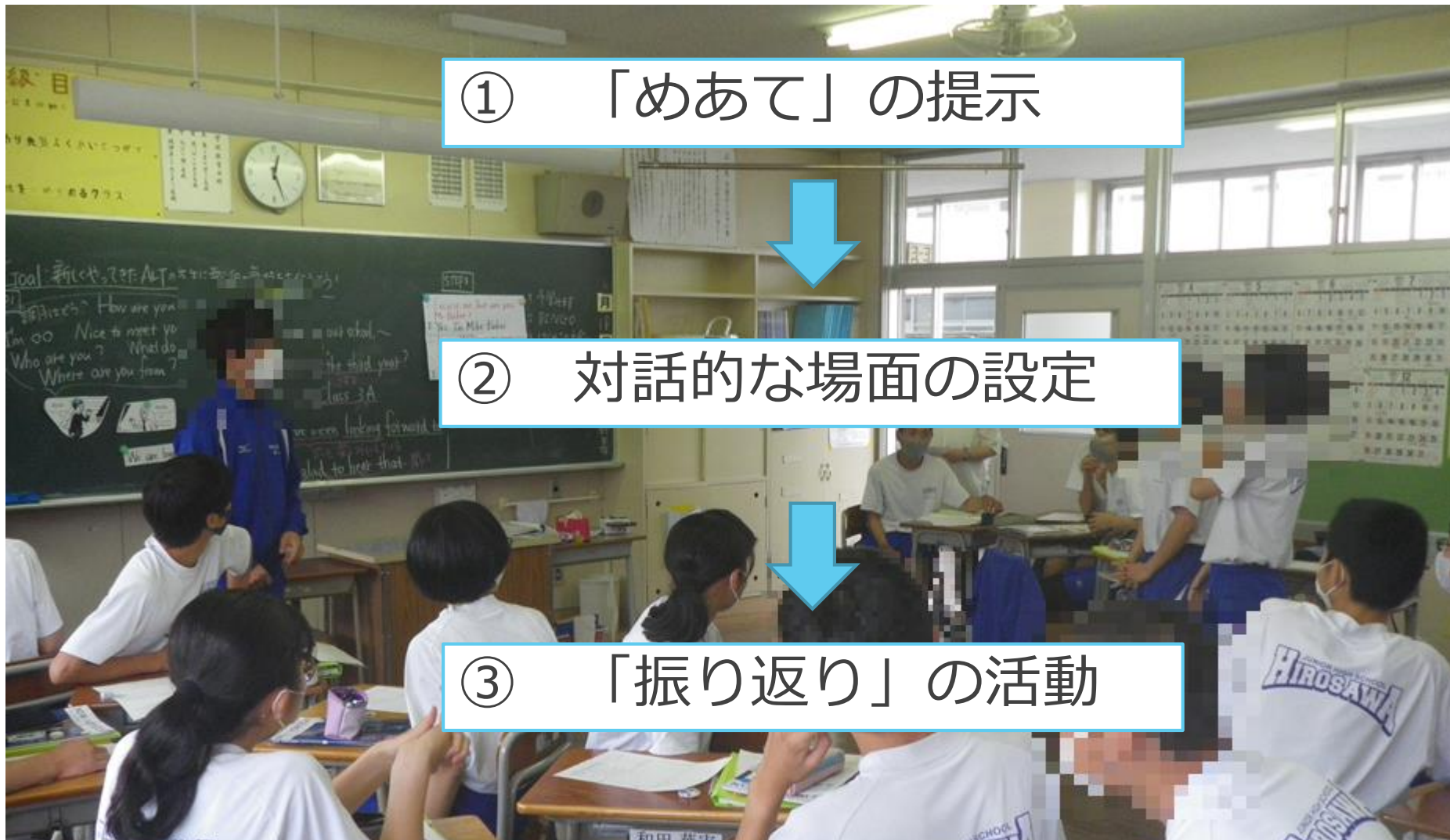
- ・教科の枠を越えた手立てを共有

→教科が変わっても学習活動の手立てが共有されることで、生徒・教師双方で効率的に学習を進められる。

少数になりやすい技能教科の先生方を学年全体でサポート。



Ⅲ 「主体的・対話的で深い学び」にするための授業づくりの基本 前期指導主事訪問から



Ⅲ 学年部会による支援体制 前期指導主事訪問から

振り返りシートを活用しての授業研究会



授業研究会記録用紙 () 先生

めあて

5種類をよ
共通の相違点 興味
難易度 何とやら!!
目標・明確

2-3回 下(その動向を
用いて課題を対応せ、中身に
75%している。

前向きな姿勢を
学習に向かい、密に
(等入)

「復習する」とは、
言わなければ、復習は
あつて

単語
「」で終わる ← 復習
何回か

いい子
も、目的に取り入れる

発表ルール
発表ルール (別紙)

振り返り

2-3回
重なり活用、分類、
ア、前向きな姿勢、
学習に向かい、密に

ホチキスは
見えてく

声外-ン

指導助言

「めあて」「中心的な学習活動」「振り返り」
の3場面に焦点を当てて、意見交換



Ⅲ 学年部会による支援体制

授業公開期間の設定

期間：8月30日～9月17日

- ・ 学年内で学習活動の手立てを共有して、
教科を越えて取り入れる。
- ・ 授業を見せ合い、「参観シート」に意見を記入。

参観者

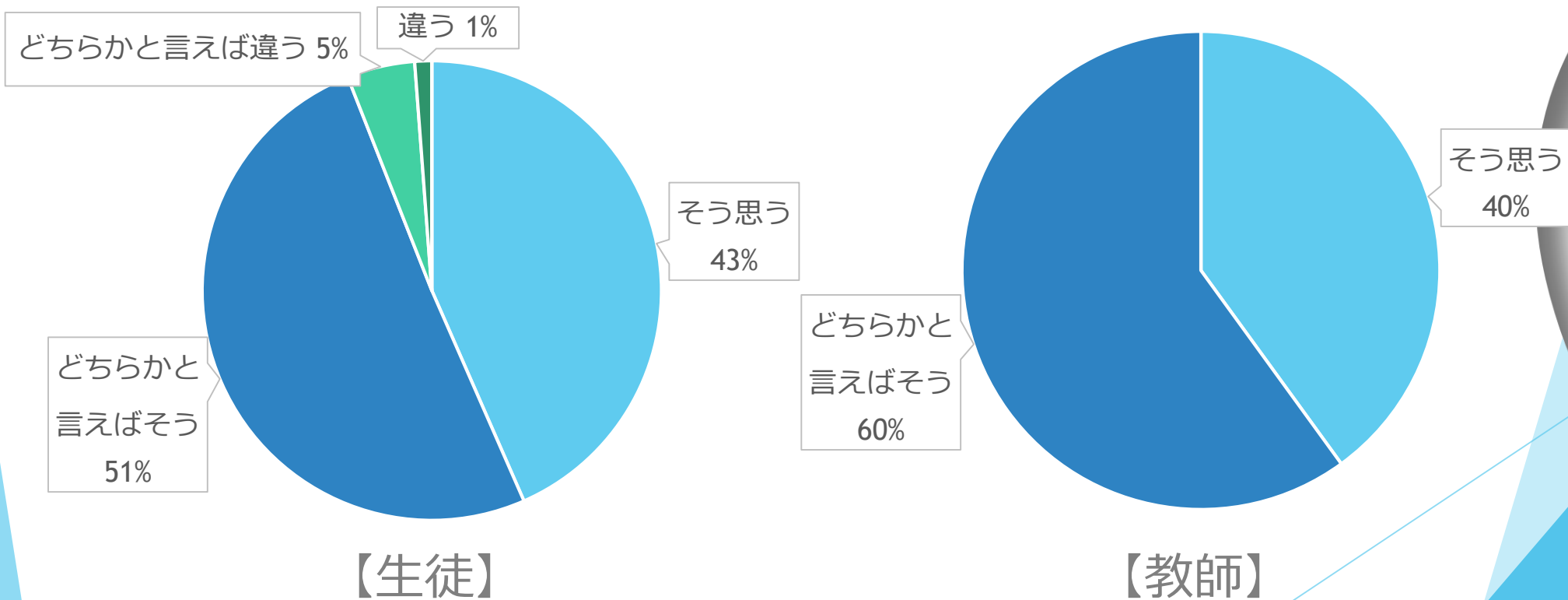
- | |
|--|
| ○本実践の良かったところ |
| ・ タブレットで、イラストの中の国名を視点ごとに色別で印を付けさせることで、クラスの意見としてどこがタビいのかや友達のお互いの集計がすぐに視覚化できていた。 |
| ・ 全体で共有したい考えは、範囲を指定することで、考えを出した生徒が分かり、積極的に考えを出せない生徒も考えを伝えやすい。 |
| ○本実践をより良くするためのアイデア |
| ・ イラストがタブレットの全面にうつらず小さかったので、全画面になると良い。 |
| ・ 作業の際、タブレットの重さがか遅く、スムーズに重くと良いと思った。 |

記入したものは、授業者の先生へ渡してください。

授業者

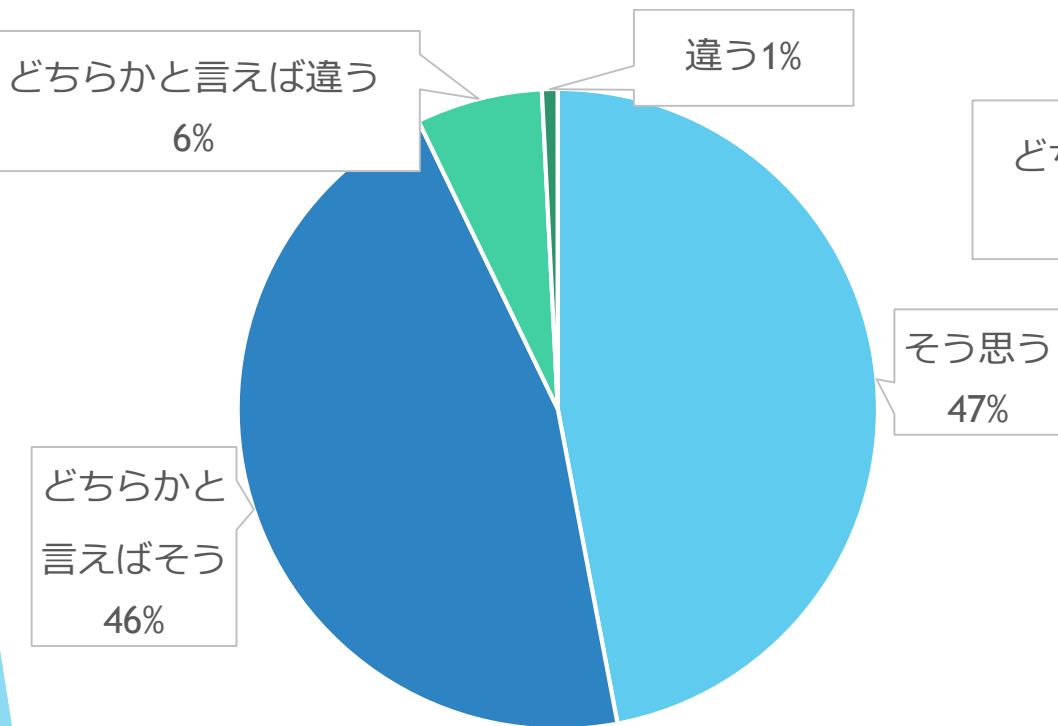
Ⅲ 「主体的・対話的で深い学び」にするための授業づくりの基本 授業に関するアンケートの結果から

Q: 「めあて」の提示で学習の見通しをもつことができる

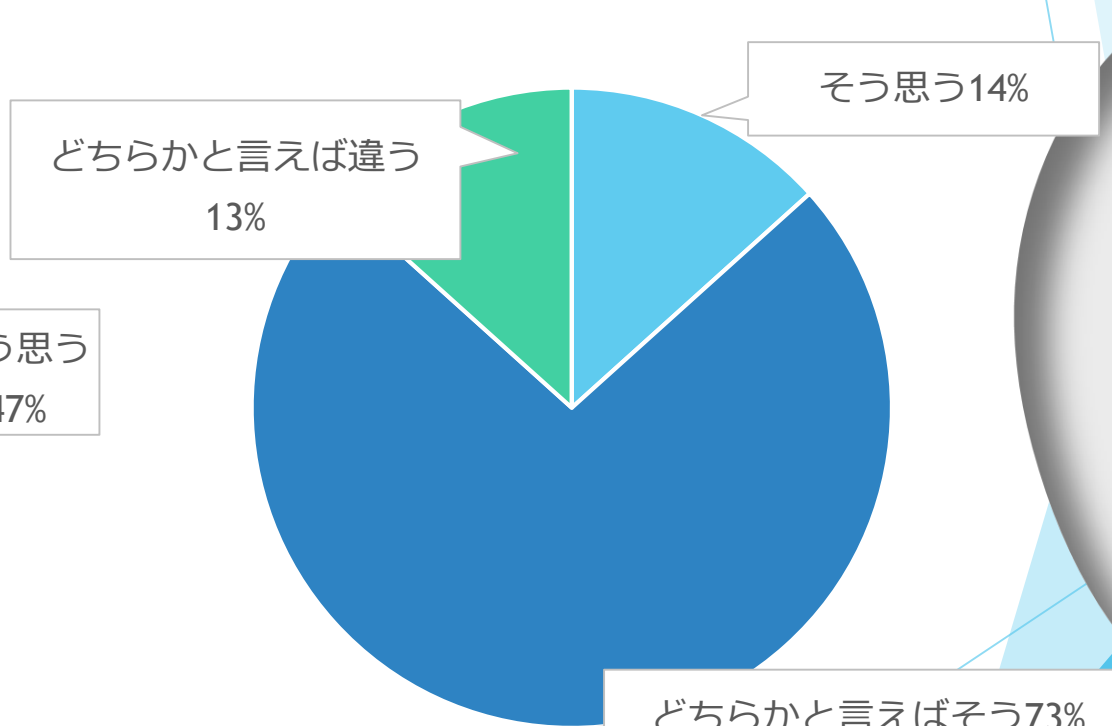


Ⅲ 「主体的・対話的で深い学び」にするための授業づくりの基本 授業に関するアンケートの結果から

Q: 「めあて」の提示で、その学習の中で「解決すること」や「解決の方法」、「学習活動やテーマ」がわかるようになっている



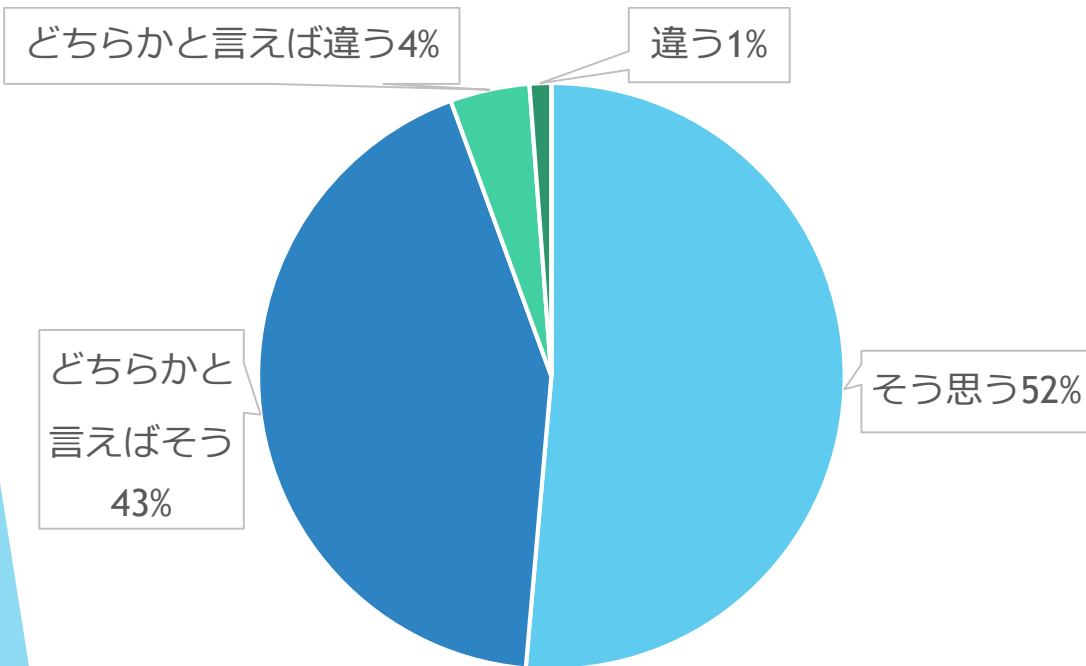
【生徒】



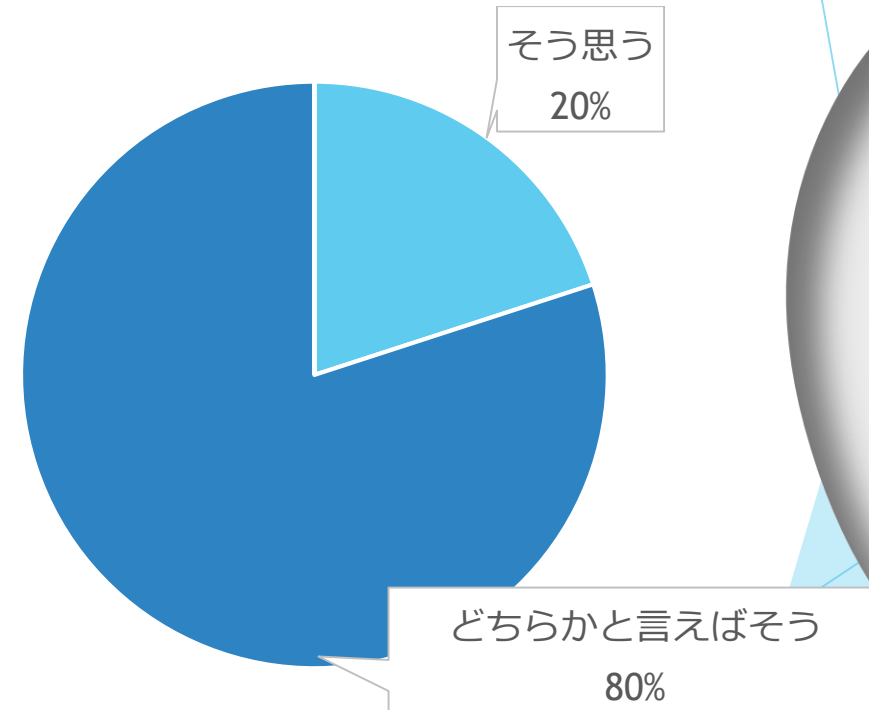
【教師】

Ⅲ 「主体的・対話的で深い学び」にするための授業づくりの基本 授業に関するアンケートの結果から

Q: 「めあて」の提示は、学習の理解に役立っている



【生徒】



【教師】

Ⅲ 「主体的・対話的で深い学び」にするための授業づくりの基本 授業に関するアンケートの結果から

Q: 「めあて」の提示は、学習の理解に役立っている

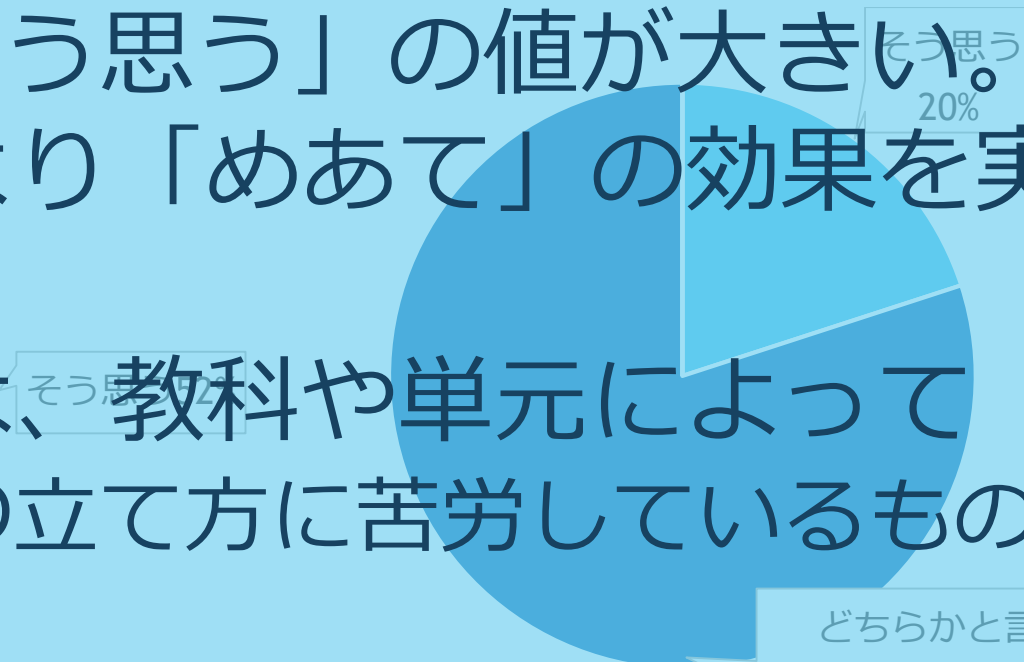
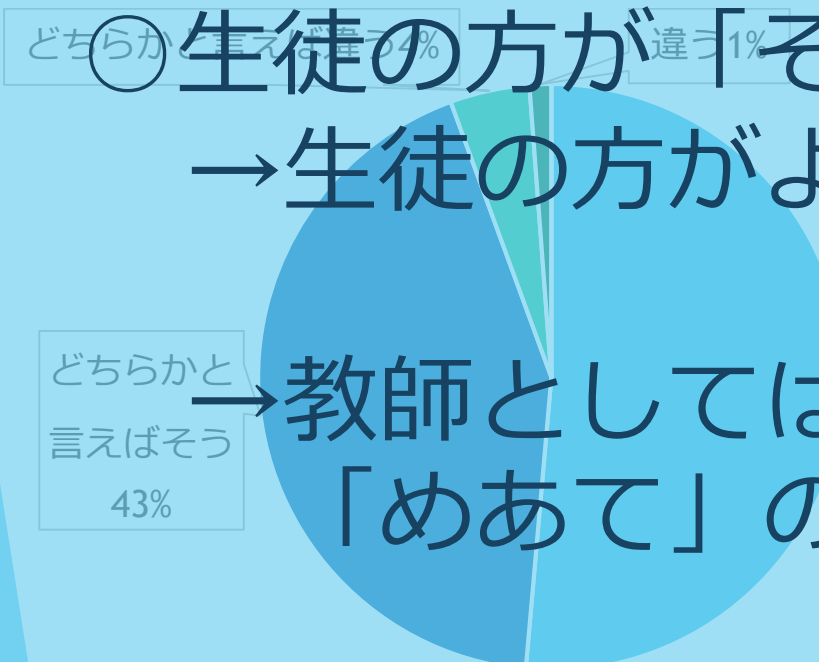
◎ 生徒の方が「**そう思う**」の値が大きい。

→ 生徒の方がより「めあて」の効果を実感している

→ 教師としては、**教科や単元によって**
「めあて」の立て方に苦勞しているものもみられる

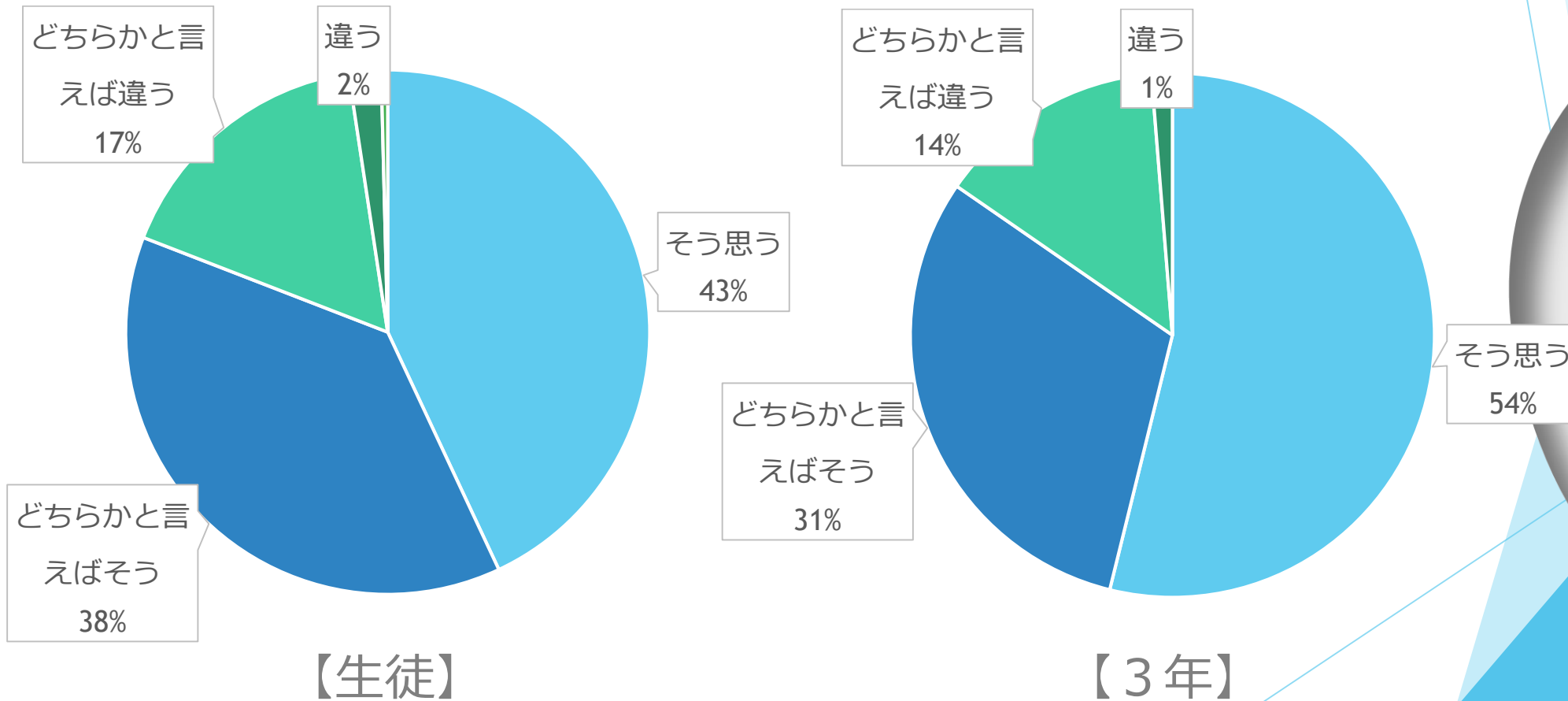
【生徒】

【教師】



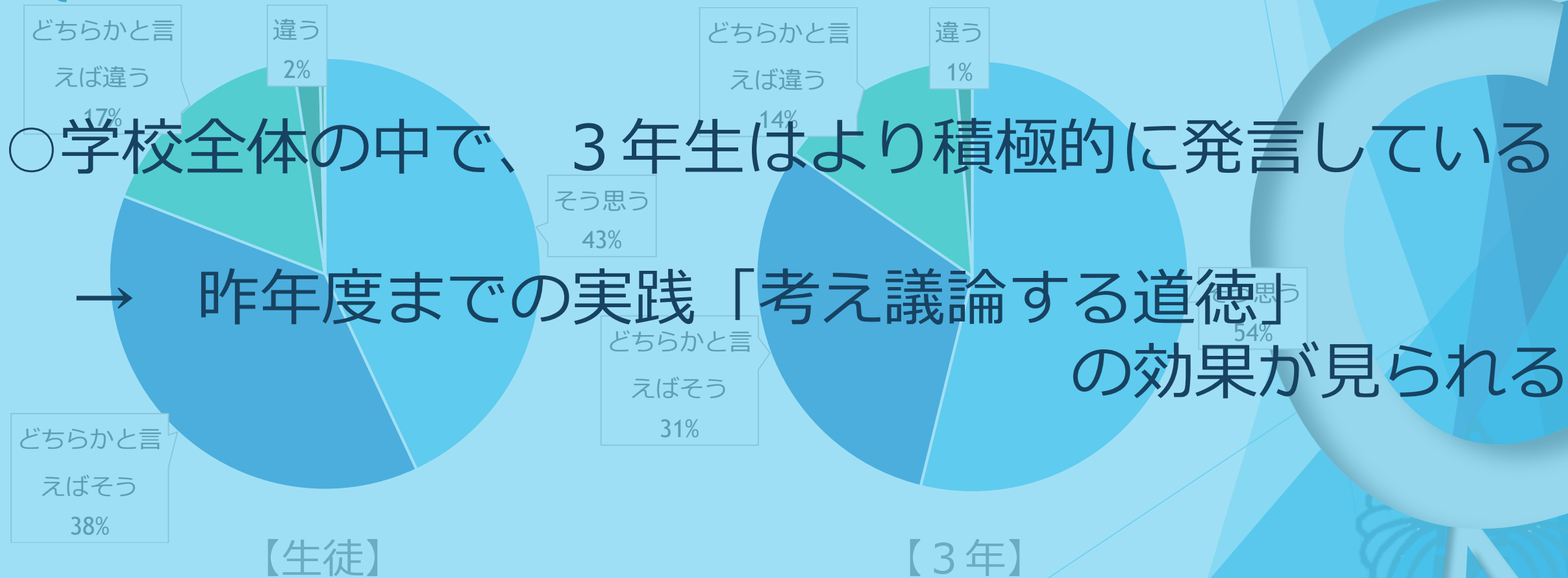
Ⅲ 「主体的・対話的で深い学び」にするための授業づくりの基本 授業に関するアンケートの結果から

Q:対話的な場面（話し合いなど）では、積極的に発言している



Ⅲ 「主体的・対話的で深い学び」にするための授業づくりの基本 授業に関するアンケートの結果から

Q:対話的な場面（話し合いなど）では、積極的に発言している



Ⅲ 「主体的・対話的で深い学び」にするための授業づくりの基本 授業に関するアンケートの結果から

Q:対話的な場面があると...



一人で気付けなかったことに着目できる

【生徒】



同じような意見を聞いて、自分の考えに自信がもてる

【生徒】

Ⅲ 「主体的・対話的で深い学び」にするための授業づくりの基本 授業に関するアンケートの結果から

Q:対話的な場面があると...

○積極的に発言できない生徒も、
一人で気づけなかったことに気づける対話的な場面のよさを感じている

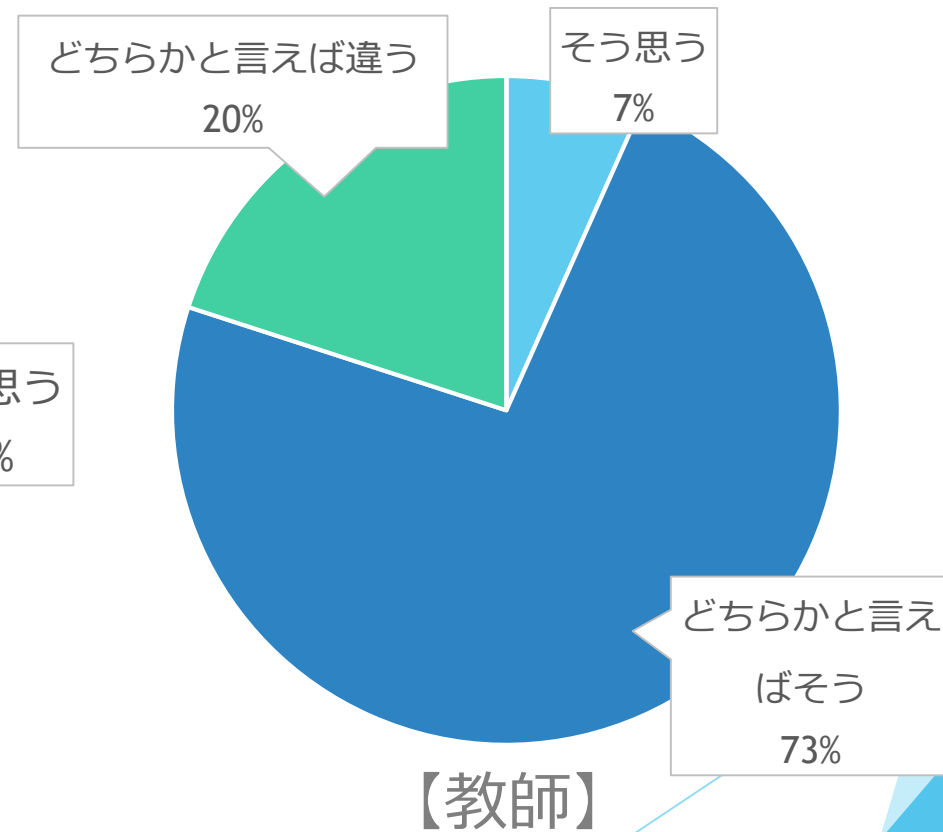
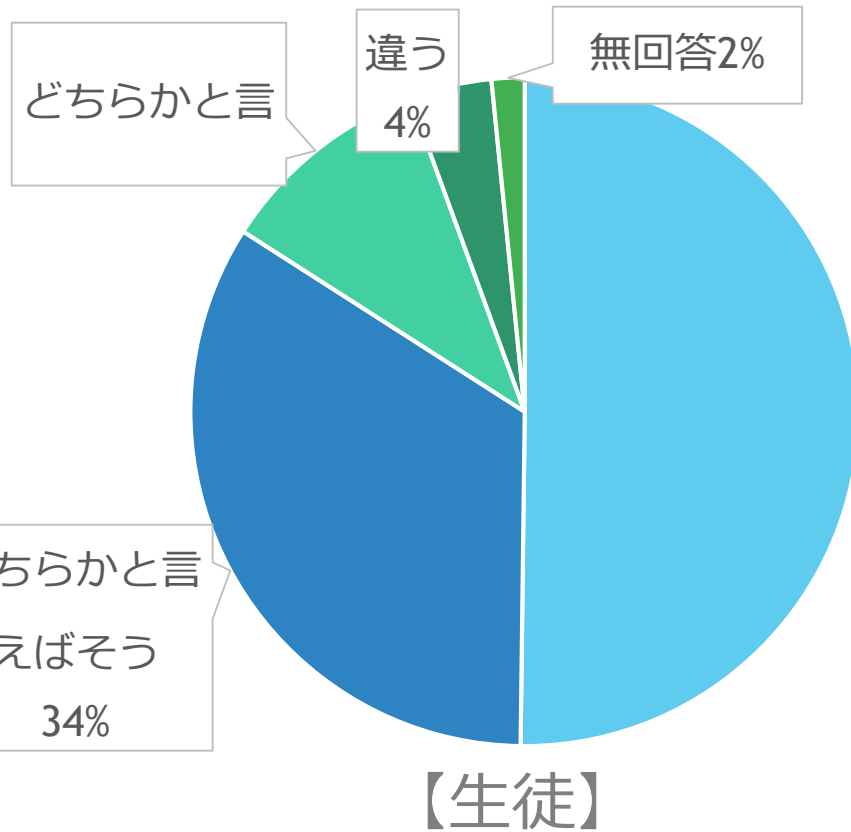
同じような意見を聞いて、自分の考えに自信が持てる

【生徒】

【生徒】

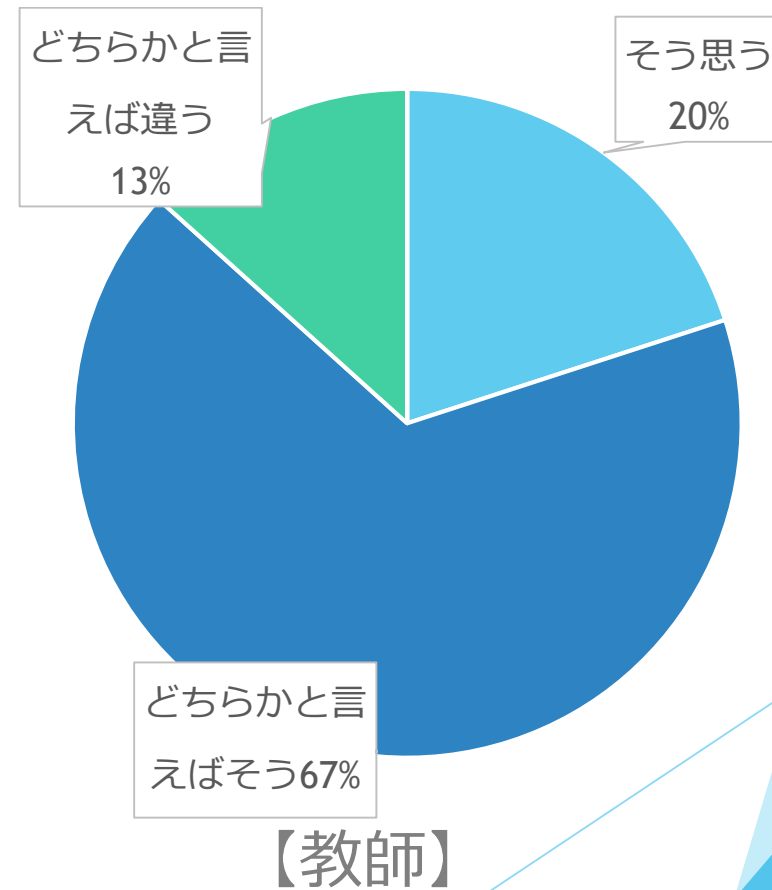
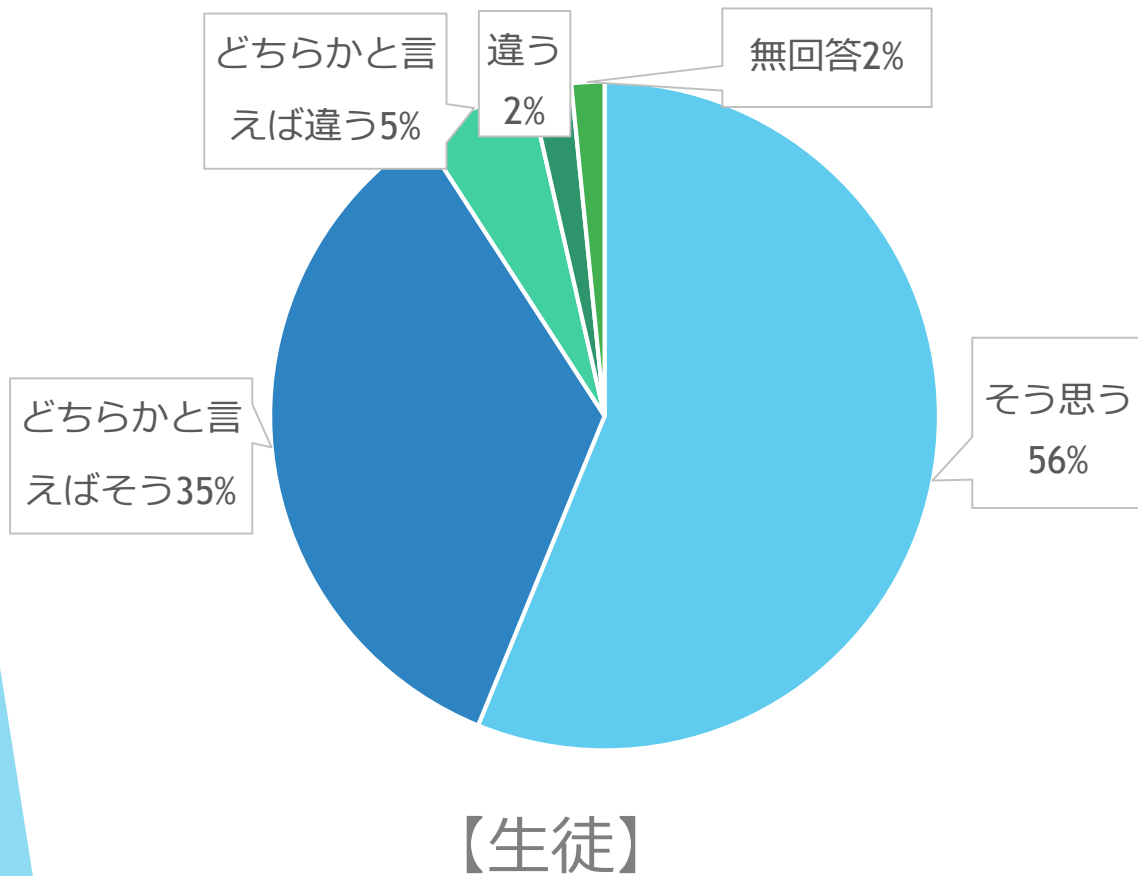
Ⅲ 「主体的・対話的で深い学び」にするための授業づくりの基本 授業に関するアンケートの結果から

Q:ICTを活用した授業は、意見交流や発表などを簡単にできる



Ⅲ 「主体的・対話的で深い学び」にするための授業づくりの基本 授業に関するアンケートの結果から

Q:ICTを活用した授業は学習の理解に役立っている



Ⅲ 「主体的・対話的で深い学び」にするための授業づくりの基本 授業に関するアンケートの結果から

Q:ICTを活用した授業は学習の理解に役立っている

○ICTの活用については、
教師の方が否定的な意見が若干多い傾向がある

→ICTを「効果的に」活用できるかについては
自信がない

どちらかと言
えば違う 29%

無回答2%

どちらかと言

えば違う

13%

そう思う

20%

どちらかと言

えばそう35%

そう思う

56%

どちらかと言

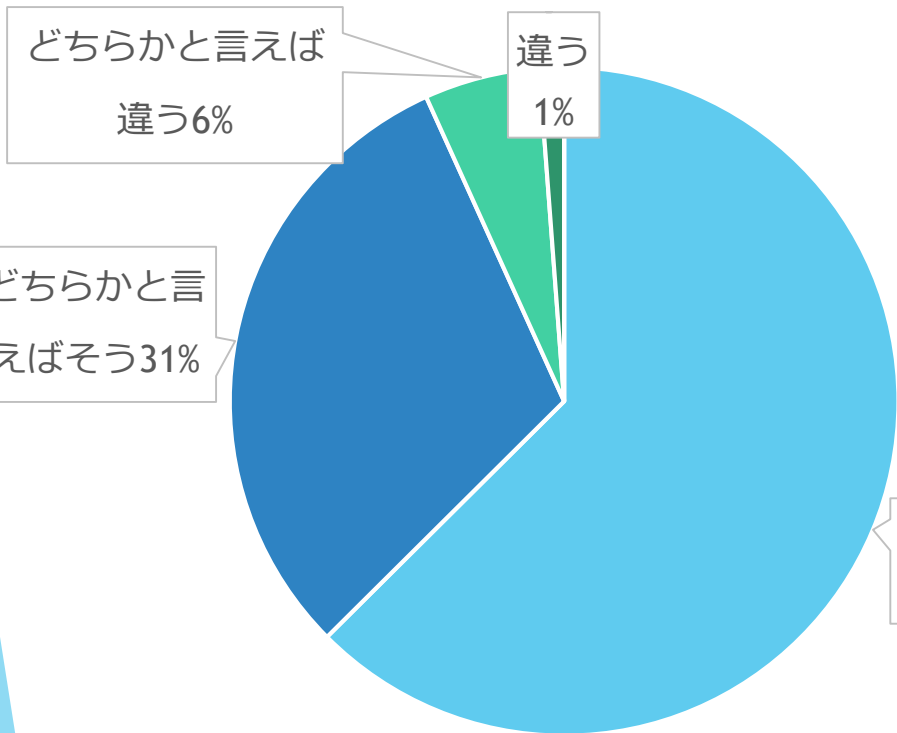
えばそう67%

【生徒】

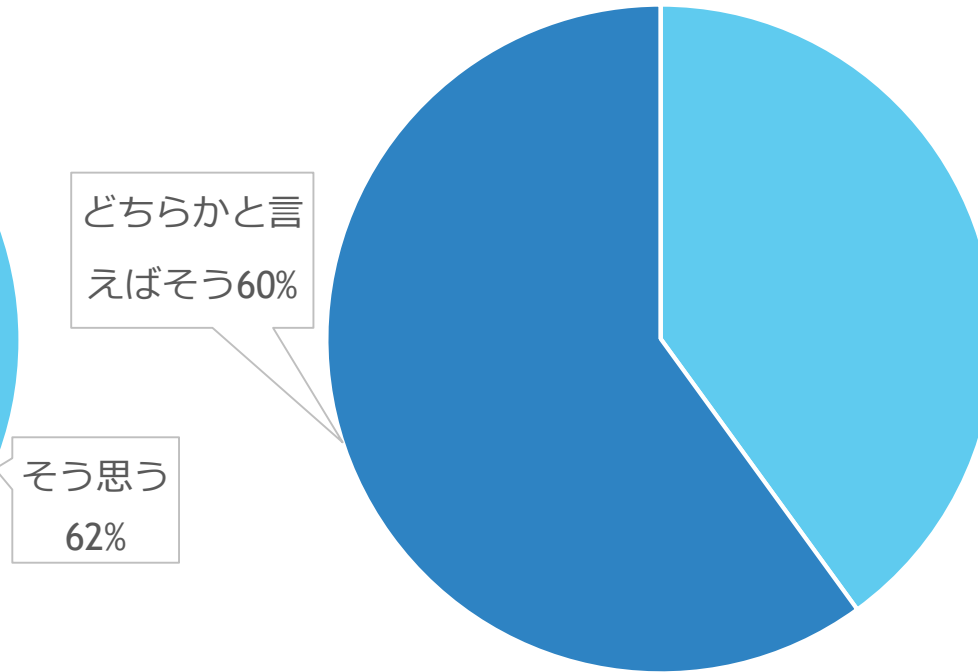
【教師】

Ⅲ 「主体的・対話的で深い学び」にするための授業づくりの基本 授業に関するアンケートの結果から

Q: 「振り返り」をすることは、学習の理解に役立っている



【生徒】



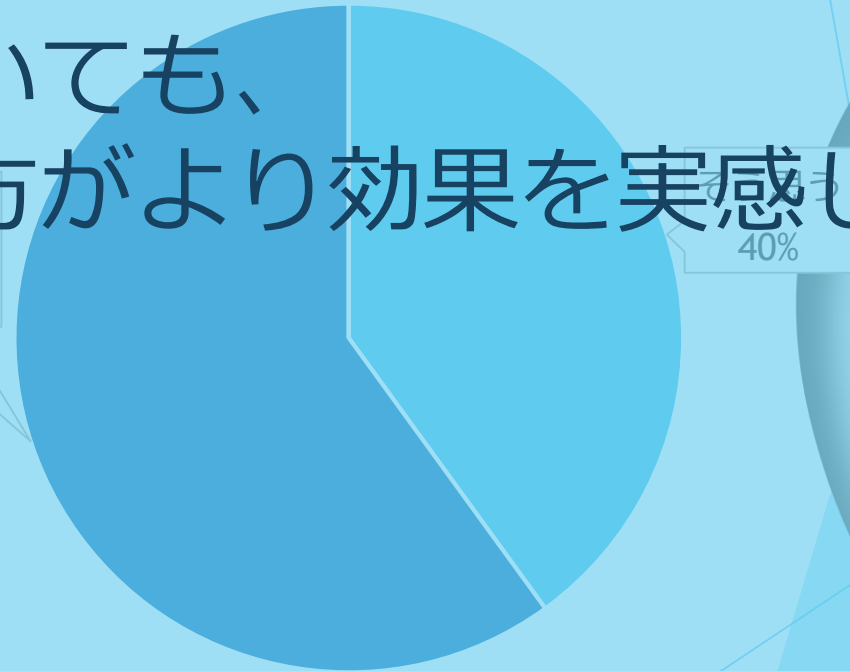
【教師】

Ⅲ 「主体的・対話的で深い学び」にするための授業づくりの基本 授業に関するアンケートの結果から

Q: 「振り返り」をすることは、学習の理解に役立っている



「振り返り」活動についても、
生徒の方がより効果を実感している



【生徒】

【教師】

IV 実践を通して見えてきた成果と課題

成果

- ・「めあて」～「振り返り」までを見通した授業づくり
- ・学年間の連携を取りながら手立てを共有
- ・ICT活用の促進

課題

- ・単元全体を通じた授業のデザイン
- ・授業作りのための手立ての精選
- ・ICT活用スキルの向上

V 今後の見通し ～後期の研修に向けて～

- 「はばプラⅡ」を活用した授業作りの継続
- 見せあう授業を定期的に行い、
授業力の向上、手立ての共有を強化
- ICTの積極的な活用